

IDB関連の省エネ関連ワークショップ（アルゼンチン政府主催）に参加しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、米州開発銀行（IDB:Inter-American Develop Bank）の委託を受けて、2017年11月23日に、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催されたエネルギー鉱山省主催の省エネ関連ワークショップ（Jornada Nacional de Eficiencia Energetica）に参加し、日本の省エネ政策の概要及びその模範例の一つであるトップランナー制度の特長等に関する講演を行いました。同時に開催された政府の省エネ委員会でも、日本鉄鋼業の省エネの歴史に係る講演を行い、政府・業界関係者と情報共有・協力関係の構築を行いました。



省エネデー全体会での講演



政府主催省エネ委員会での講演

本ワークショップは、アルゼンチンのエネルギー鉱山省（MINEM:Ministry of Energy and Mining）の主催で、同国の省エネルギー推進強化のために開催されました。同省における省エネ担当者数は、数年前に比し3倍以上に増加しており、今後、同国における省エネ活動は、大きくスピードアップすることが期待されます。

(1) 産業セクター向けセッション(聴衆：250人程度)

日本の省エネ法を中心とした省エネ体制構築の歴史、省エネ推進の現状、今後の課題認識等について紹介しました。過去40年間の努力の結果が40%の省エネ結果に繋がった点は聴衆に大きな印象を与えました。

(2) サイドイベントである政府の省エネ委員会(聴衆：40名)

政府関係者と鉄鋼業界関係者を対象に、日本の省エネ体制構築の経緯と成功理由等について講演しました。時代を先取りした生産・プロセス技術の導入と、その無駄のない運用が、生産増のみならず、省エネ体制の実現に繋がったことと、その背景に資金面も含めた官民連携があったことに関し、十分な理解を得られました。省エネ余地がかなり減少している中で、日本鉄鋼業としても苦闘しているという説明には、共感を得ることが出来たと思います。